

ことを意識しない平静の会話を獲得するため、ピンマイクは心臓音から直接に心拍数を記録するためであると告げた。

③. 約10分間の会話を求めた。内容は自由であると教示したが、もし話題に困惑した時のために、「お互いに、自己紹介をして下さい」「今の気持ちを素直に表現して下さい」「学校生活は楽しいですか」「趣味や特技をいって下さい」「相手の人を動物に例えると何になりますか」という話題を記述した用紙をわたした。実験者は退出した。

④. 被験者の会話の様子は隣室のモニタースピーカーとワンウェイミラーから観察した。

⑤. 10分経過後、実験者は再入室し、PGRの電極とピンマイクを被験者から外した後デブリーフィングを行い被験者に実験後の感想を求めた。

⑥. 判定者7人が、ビデオ1で撮影録画した二者間の会話映像を再生しながら、それぞれの言語的行動と非言語的行動について評定した。言語的行動の評定項目は以下の8つである。この尺度の教示文、および反応カテゴリーの形式は相川ら(1993)に従った。

1. 素直な自己表現（自分の気持ちを素直に表しているか）
 2. 経験の開示（自分の意見を述べているか）
 3. 意見表明（自分の言い分、考えを表しているか）
 4. 会話への積極的参加（積極的に会話に参加しているか）
 5. 質問（相手に質問をしているか）
 6. 返答フィードバック（相手の発言に対して反応しているか）
 7. 同意表現（相手に対して同意の表現がみられるか）
 8. 否定的態度（相手に対して否定的であるか）
- 以上8項目を「全くそうでない」(1点)～「非常にそうである」(6点)の6点尺度で評定を7人の判定者に求めた。

また、非言語的行動の評定は次の項目で実施した。

1. 声の大きさ「非常に大きく不快である」「非常に小さく聞き取れない」(1点)～「かなり大きく、少し不快を感じる」「かなり小さく、時々聞き取りにくい」(2点)～「やや大きいが不快ではな

い」「やや小さいが聞き取れる」(3点)～「適当である」(4点)。

2. 言葉の明瞭さ「非常に不明瞭な発音で時々理解できない」～「かなり口の中でぶつぶつ言う、かなり早口であるなどの傾向があり理解しにくい」～「口の中でぶつぶつ言う、早口であるなどの傾向があるが不明瞭ではない」～「適当な明瞭さである」。

3. 言葉の速さ「非常にゆっくりで、しばしば聞き取ることができない」「非常に速くて、しばしば聞き取ることができない」～「かなりゆっくりで時々聞き取りにくい」「かなり速くて時々聞き取りにくい」～「ややゆっくりだが聞き取れる」「やや速いが聞き取れる」～「適当な速さである」。

4. 姿勢の前傾傾向「異常に固く前かがみで不快の印象を与える」～「かなり固く前かがみで否定的な印象がある」～「やや固く前かがみだが否定的な印象はない」～「非常にリラックスしている」。

5. 姿勢の後傾傾向「異常に後ろにもたれ掛かり相手に対して拒絶的である」～「かなり後ろにもたれ掛かり相手に対して否定的である」～「やや後ろにもたれ掛かる傾向があるが、相手に対して否定的ではない」～「正常にリラックスしている」。

6. 体の向き「全く体を背けている」～「かなり体を背けており否定的な印象がある」～「やや体を背けているが否定的な印象はない」～「正常な向きを取っている」。

7. 表情「全く表情がなく不快である」「否定的な表情を表出し不快である」～「ほとんど表情を表出せずやや不快である」「しばしば否定的な表情を表出しやや不快である」～「あまり表情を表出しない傾向にあるが不快ではない」「幾分相手に対して否定的な表情はするが不快ではない」～「表情豊かである」。

8. 身振り「全く身振りがなく不快な印象を与える」～「ほとんど身振りを使わずやや否定的な印象がある」～「あまり身振りを使わないが否定的な印象はない」～「適当な身振りである」。

9. うつむき加減「ほとんどうつむいており不愉快である」～「かなりうつむきがちで否定的な印象を与える」～「ややうつむきがちであるが否